

科目名	学校教育学特講	担当者	キタノ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>															
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考え方や意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論などを行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、リポートの作成、掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士が、草稿段階で相互にリポートを点検し、推敲する協働活動を行う）、リポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。リポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。教材の学修：20時間、リポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間。</p>															
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終的な締め切り日は、学事歴で定められた日とする。通年30コマ分（半期15コマ分）の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>90%</td> <td>課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。</td> </tr> <tr> <td>観察記録</td> <td>10%</td> <td>メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。	観察記録	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。
種別	割合	評価基準														
リポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。														
観察記録	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。														
履修者への要望	<p>指定されたテキストを中心に、課題に適切に答えること。合わせて、参考図書も課題に応じて読むこと。レポートは、タイトルを付けて、章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度も問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 北野秋男・上野昌之編著 教材名： 『ニッポン、クライシス』学事出版（2020年）3,000円</p> <p>本書は、現代のマイノリティ問題の実態や問題点を解明するだけでなく、歴史的・理論的なアプローチを取り入れ、根源的で、より本質的な問題に迫ることを目指している。また、従来の学問分野や専門性にこだわらず、学問的ディシプリンの壁を超えるとする挑戦に取り組んだものもある。現代におけるマイノリティ問題が従来の学問的な領域や範疇を超えるものであり、既存の領域や分野では収まらない広範囲の問題を抱え込んでいるからである。問題の多様化とボーダレス化を念頭に置いて書かれている内容となっている。</p>
参考図書	北野秋男編著『教育学へのアプローチ』啓明出版（2020年）、北野秋男編著『新訂 わかりやすく学ぶ教育制度』啓明出版（2010年）、真鍋 厚『不寛容という不安』彩流社（2017年）、山田昌弘『希望格差社会』ちくま文庫（2019年）。
履修上のポイント	私たちの身近な日常生活においては「寛容の精神」は失われつつあり、排除や敵視、差別や抑圧などの問題が顕著になりつつある。様々な挫折や孤独を経験すれば、私たちの誰もが絶望の淵に追い込まれ、忍耐や許容を伴う「寛容の精神」を失う。こうした現代的な危機を生み出す、社会構造や教育構造を歴史的な観点も含めて理解することが、本授業における履修上のポイントとなる。差別と排除、憎悪と偏見に満ちた社会は、まさに日本の危機となるが、そうした社会構造を生み出す新自由主義の問題、ならびに学力構造を考えることが本授業の「ねらい」である。
リポート課題 1	<p>(1) 1980年代以降に登場する新自由主義と呼ばれる政治・経済体制のあり様と問題点を理解し、日常の生活や意識をどのようにコントロールしているかを理解すること。 留意点：テキストの「序章」と「第1章」を読んで、今日の社会・経済体制のあり様を問い合わせながら、社会的な閉塞状況に置かれている多くの人々が感じる問題点を検討すること。</p>
リポート課題 2	<p>(2) 戦後から今日までの日本における学力テスト政策によって生み出された「学力マイノリティ」と呼ばれる人々の存在を確認しつつ、学力テスト政策が「学力マイノリティ」と呼ばれる人々を、いかに産出したかを歴史的に検証することである。 留意点：テキストの「第5章」を読んで、戦後から今日までの「学力マイノリティ」の産出構造を理解すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： J. デューアイ（市村尚久 訳） 教材名： 『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫）1,050円 北野秋男著『日米のテスト戦略』（風間書房）2,100円</p> <p>前者の教材は、古典的名著とされるデューアイの著作であり、わが国の学校教育にも多大な影響を与えた経験主義教育の代表作である。欧米の教授学思想の系譜に位置づけながら、デューアイの教育思想と「学力」のあり方を理解すること。後者の教材は、日米の学力テスト政策の比較研究である。特に、日本の現代の学力テスト政策の動向と問題点を知ることが出来る。</p>
参考図書	原 聰助他編『近代教育思想を読み直す』新曜社（1999年）、関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版（2001年）、北野秋男他著『現代学力テスト批判』東信堂（2018年）、市川伸一『学力低下論争』ちくま書房（2005年）
履修上のポイント	『教育思想のルーツを求めて』を読み、教授学思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分し、その基本理念を理解すること。その上で、デューアイの著作を読むこと。デューアイの著作『学校と社会』を読んで、経験主義教育、実験学校のあり方、教育・学力のあり方に関する思想を理解することである。また、「学力」の観点から今日の日本の学力テスト政策に関するテキストを講読し、デューアイの主張とは異なる知識中心、教科中心のテスト政策の現状と問題点を考察すること。
リポート課題 1	<p>(1) デューアイの『学校と社会』を読んで、経験主義教育の内容を記述すること。現代的視点から「学び」の問題にも言及すること。 留意点：デューアイの唱える教育学思想を正しく理解すること。最後に、現代的視点から、我が国の学校教育における「学び」の問題を批判的に言及する。</p>
リポート課題 2	<p>(2) 現代の国と地方自治体における学力テスト政策を、「学力低下」問題や「PISAショック」などに触れながら、その導入経緯や課題点を説明すること。 留意点：日本のテスト政策に言及したテキスト『日米のテスト戦略』を読むこと。（米国は課題ではない。）特に、「全国学力・学習状況調査」や地方学力テストの実態や問題点を考察すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	manaba を通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の概要説明と各章の内容と課題説明
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「序章」の重要事項の説明
第 4 回	manaba を通じて、同上の「序章」への質問や討議
第 5 回	manaba を通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「第 1 章」概要説明
第 6 回	manaba を通じて、同上の「第 1 章」への質問や討議
第 7 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 8 回	manaba を通じて、草稿リポートの提出・添削、
第 9 回	manaba を通じて、修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「5 章」の重要事項の説明
第 11 回	manaba を通じて、同上の「第 5 章」への質問や討議
第 12 回	anaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 13 回	manaba を通じての草稿リポートの提出・添削、
第 14 回	manaba を通じての修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じてリポートの最終稿の提出

基本教材 2

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	manaba を通じて、テキスト『学校と社会』の概要説明と各章の内容と課題説明
第 3 回	manaba を通じて、デューイの経歴や教育思想、著作物の確認
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『学校と社会』の重要事項の説明
第 5 回	manaba を通じて、同上の『学校と社会』への質問や討議
第 6 回	manaba を通じて、デューイの他の著作『民主主義と教育』『経験と教育』などの解説
第 7 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 8 回	manaba を通じて、草稿リポートの提出・添削、
第 9 回	manaba を通じて、修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『日米のテスト戦略』の概要説明と各章の内容と課題説明
第 11 回	manaba を通じて、文部省「学力テスト政策」への質問や討議
第 12 回	manaba を通じて、地方自治体「地方学力テスト政策」への質問や討議
第 13 回	manaba を通じての草稿リポートの提出・添削
第 14 回	manaba を通じて、修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じて、リポートの最終稿の提出